

令和5年7月豪雨災害

あたたかな気持ち

あつまる

7月の豪雨災害により、久留米市でも家屋への浸水被害や土砂災害等が発生しました。

このたび被災された皆さまにおかれましては、心よりお見舞い申し上げます。

市社会福祉協議会では、市との協定に基づき、7月11日に災害ボランティアセンターを開設し、被災者が少しでも早く日常生活に戻ることができるよう、生活環境の回復に向けて活動しました。

今回の豪雨災害で、延べ753件のボランティア依頼を受け、延べ7675人がボランティア活動に参加

しました(9月10日時点)。

災害支援に欠かせない車両の確保や、市東部へ支援に入るための拠点となるサテライトの運営には、共同募金の災害等準備金を活用させていただきました。

ボランティア活動の様子



山鹿市
漕上 修一さん

「熊本地震の時も全国から応援に来てもらった。みんな困っているから、少しでも力になればと思って。」

熊本県山鹿市から活動に参加された漕上さん。以前、熊本で地震が起きた際にボランティア活動をされた経験から、久留米でボランティアを募集しているとの情報を得て、駆けつけてくれました。

この日の天気は快晴で、35度近い気温でした。当日集まった個人のボランティアは、受付後にグループに分かれ、被災されたお宅で活動し、汗を流されていました。活動の依頼の多くは、床下の泥出しや、水に濡れてしまった畳や家財等の搬出、拭き掃除です。

「今日活動した高齢のご夫婦のお宅では、家財道具がほとんど水に浸かっており、搬出をお手伝いしました。地域の方とお話した際には、膝の所まで水がきたんですとか、車が水没した、というお話を聞きました。やはり現地に来ないとわからないこともありますね。」



濡れてしまった家財の搬出



県内外の社協の力もお借りしました

ボランティアの皆さんは、活動先の世帯の人や地域の人に声をかけたりして、気持ちに寄り添いながら活動されていました。

ボランティアに来てもらって…

- 1人ではどうしてもなかったから、本当に助かりました。
- 暑い中活動していただいて、頭が下がります。
- 初めての経験でどうしたらいいかわからなかった。安心しました。



若い力も大活躍